

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21

<http://www.create-k.co.jp>

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741

FAX 075 (693) 6605

送料何冊でも240円

alife

18トリソミーの

藤井 路 著 旅也と生きる

A5判240頁 2000円+税



「長くは生きられない」難病の子どもたち、家族の生活は？ つらさや苦しみは？ 何に励まされ支えられているのか？ 子どもと家族を支えるチームはこのようにできていくのかを知ってもらいたい。

津富 宏

NPO法人 青少年就労支援ネットワーク静岡 編著

A5判170頁 2000円+税

静岡方式

行方!! 2

相互扶助の社会をつくる



「若者就労支援」から進化した「静岡方式」とは、すべての人が「困りごと」を抱える社会を生き抜くために地域を編み直し、創り直すことで、地域が解決者になるための運動だった！

生活困窮者自立支援も
◎「困りごと」がつくり出すまちおこし

木全和巳 著

A5判176頁
1800円+税

相談支援実践理論編

セクシュアリティの 相談と支援

Part 2

保護者、教員、施設の職員などからの、しょうがいのある子どもたちの性と生の相談事例。

◎保護者、支援者、家族のみなさんの「性と生の困りごと」へのヒント。「見立て」と共感的理解」を学びあう
Part 1
相談支援事例編



道東(別海)のダイヤモンド

本誌2016年12月号にも登場された岩崎和雄さんに北海道の道東地域、別海町から発信していただきました。「冬に多く見られるサンピラーの写真で、おもに冬の期間(10月～4月)に、年間20回ほど見られます」とのこと。

サンピラー(英語:sun pillar)は日本語では^{たいようちゅう}太陽柱といい、大気光学現象の一種です。日出または日没時に地平線に対して垂直方向へ、太陽から炎のような形の光芒が見られる現象です。ダイヤモンドダストでも、同様の現象が起きます。①晴れている、②気温が -15°C から -25°C 前後、③空気中にある程度の水蒸気がある、④無風、この条件がうまく整ったときに、サンピラーは出現します。年末から2月下旬くらいが、上記の条件が整いやすい時期です。



デイサービスの送迎時の写真です。この日の最低気温は-12℃でした。開拓一世二世の方々が
多いのです。



別海町は、人口15,080人（6,396世帯）、面積は大阪市の約6倍（1320.23km²）です。



地元のＪＡが運営しているケアセンターのようです。食事の準備をはじめているところです。この日は、20名ほどがデイサービスに通ってきていて、男性１名以外は女性でした。この日は農家の方が多かったですが、市街地の方が多い日もあるそうです。農家の方もふくめて、北海道への開拓一世、二世の方々です。曜日によって男性が多い日もありますが、全体では女性が多いようです。



ＪＡ道東あさひケアセンターは、北海道のつけぐんべつかいちやうにしけんべつ野付郡別海町西春別にあります。介護が必要になったときに、住み慣れた土地でその人らしく生活できるように、介護保険事業以外にもとりくんでいます。高齢者住宅は、60歳以上の一人暮らしで、家族からの支援を受けることが困難で、一人で生活することに不安があり、自炊のできる方が入所されています。いきいきサロン「遊楽」も開設しています。（写真 岩崎和雄〈酪農家〉、文 下野祇園・岩崎和雄）

【ひろばトーク】

「小粒でもぴりりと辛い」存在感のある労働組合をめざして土田昭一 6

●特集● 「我が事・丸ごと」地域共生は現場にどのような影響を及ぼしているのか

福祉政策の変節と福祉労働の危機にどう向き合うか	編集主幹	8
「我が事・丸ごと」地域共生は現場にどのような影響を及ぼしているのか		10
介護の市場化・営利化と「我が事・丸ごと」の影響	井上ひろみ	12
本当の意味での「自治力」を	塩見洋介	16
公的福祉としての保育を守り抜くために	乾みや子	20
事例を積み上げて分析し、自治体への提言をおこなっていききたい	横井真	24
参加者から意見をいただきました		28
福祉人材確保と定着に向けて	阿部裕一郎	32
労働条件が人材確保問題に与える影響	大石康子	37
社会福祉の総合性と憲法を活かす意味はなにか	石倉康次	42

●トピックス●

福祉労働者確保が最大の障壁		
——第2ステップの福祉産業化戦略の行き着く先(2)後編	黒田孝彦	44
権利としての学びとは何かを考えて	義基祐正	52
小川恂蔵資料を明治学院大学図書館で保存	黒田孝彦	54
イギリスは「孤独」担当大臣を新設し、社会的孤立に対応	新井康友	56
学んで元気! いきいき♪ 第11回京都社会福祉基礎講座が終わりました		57
2018年度の「福祉のひろば」		58

●連載●

相談室の窓から お互いのちがいを尊重し、支え合うこと	青木道忠	62
育つ風景 スープの冷めない時間	清水玲子	64
「助けて!」って言ってもええねんで!		
助けて! と言える関係をつむいでいく	徳丸ゆき子	66
全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ	千田勝夫・網枝	68
【最終回】子育ては終わった! 私たちの今、そしてこれからも家庭円満に(3)		
映画案内 『ブルックリン』	吉村英夫	70
現代の貧困を訪ねて		
記録的寒波のなかでの野宿	生田武志	72
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート		
お子さまの夢を描くのじゃ! その2	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け! 男やもめ	川口モトコ	77

福祉のひろば

2018年3月号

●表紙の絵●
神門やす子



「小粒でもぴりりと辛い」 存在感のある労働組合を めざして

全国福祉保育労働組合中央執行委員長 ^{つちだ}土田 ^{しょういち}昭一さん

昨年末に発表された労働組合の推定組織率は、一七・一％。六年連続で過去最低を更新し、残念ながら組織率は低下の一途をたどっています。労働者を取りまく環境がきびしさを増すなかで、あらためて労働組合の社会的な存在意義が問われています。

全国福祉保育労働組合（略称 福祉保育労）は、一九八六年に民間社会福祉労働者の産業別労働組合として、全国の関係労組が合流して結成されました。前身である「日本社会事業職員組合」から数えれば、今年で結成六五周年を迎えます。まだまだ小さい組織ですが、「小粒でもぴりりと辛い」存在感（社会的な役割）を発揮できる労働組合でありたいと、決意を新たにしています。

そのためには、多くの福祉労働者から信頼される労働組合となるよう、量と質の両面で自力を高めることに力を尽くさなければなりません。あわせて、総合的な福祉破壊の攻撃がかけられるもとで、福祉保育労が、幅広い関係者の協力・共同関係を築く中心的な役割を担うことが、たいへん重要になっています。とくに私は、経営者の方々との共闘関係づくりが、喫緊の課題だと考えています。原則的な労使関係を前提としつつ、福祉現場が利用者・対象者、地域住民の権利を守る砦となるよう、経営者の方々と力を合わせていきたいです。

福祉保育労は、二〇一八春闘から「産業別最低賃金」の議論をはじめることになりました。具体的な内容や実施方法は、関係労組の経験に学び、研究者の力もお借りしながら形づくる予定です。福祉労働者にとって、福祉職場はやりがいがあり、健康で安心して働ける環境であって



つちだ しょういち

1986年 5月 社会福祉法人京都府社会福祉協議会入職
2012年 4月 京都府社協を退職し、全国福祉保育労働組合京都地方本部の役員専従
2017年 9月 全国福祉保育労働組合中央執行委員長

こそ、利用者・対象者などの暮らしやいのちを守り、発達を保障することができます。

福祉保育労は、結成以降一貫して、福祉労働者の処遇改善と利用者・対象者の権利の向上を統一的な運動課題と位置づけ、たたかいてきました。その立場から、私は、経営者の方々の協力も得ながら「この金額以下では働かせない」といった規制力がある最低基準をできるだけはやくに実現したいと考えています。

政府は「我が事・丸ごと地域共生社会」路線を打ち出しています。運動の側にいる福祉労働者ですら「それって悪いことなの」と錯覚するような言葉や理屈をたくみに使いながら、いつもの国家責任の後退と解体をすすめている。甘い言葉に惑わされることなく、政府の政策的な意図を正確につかむためには、福祉労働者が社会福祉の理念や原則をしつかりと身につけておくことの必要性を痛感しています。

しかし、社会保障制度審議会「九五年勧告」で社会保障の理念がゆがめられ、介護保険制度の導入で福祉制度から公的責任が後退させられるなか、福祉労働者の福祉に対する考えや意識が大きく変化してきています。この現実には甘んじていては、「地域共生社会」路線に対峙することはできません。「権利としての福祉」の実現をめざす福祉保育労として、研究者の方々の連携を深め、福祉労働者が社会福祉の理念や原則を学ぶ運動をつよめていきたいと考えています。

特集

もはや福祉と言えるのか、福祉政策の変節と

福祉労働の危機にどう向き合うか

——第二回社会福祉研究交流集会合宿研究会から

第二回社会福祉研究交流集会合宿研究会が、一月六・七日に大阪でおこなわれました。もともとこの場合は、夏の集会へのテーマや概要につなげる研究会です。今回の研究会の目的は、①「我が事・丸ごと 地域共生」の政策的看板は、社会福祉の各分野でどのような問題を掘ってきたかを、四種別（高齢福祉、障害福祉、児童福祉、地域福祉）の報告と討論から整理し、研究的批判と運動的課題を明らかにすること、②福祉労働の現況報告と討論から、本来の福祉労働との乖離と課題を鮮明にすることです。今号では、その概況をお伝えすることにしました。

一月二〇日に、一五〇日間の会期で第一九六回通常国会がはじまりました。政府はこれからの三年間を、「生産性革命・集中投資期間」にすると打ち出しました。社会保障関連法案は、経済政策を支えるための補完政策と財源確保（社会保障費削減で経済政策等に捻出する）という目的を受け持っています。現実の国民生活の困窮に政策的アプローチをしていると見せかけ、最低生活の引き下げ（生活保護基準の引き下げ）や「社会保障と税の一体改革」の強化など、国民の命や生活を置き去りにする、政府の言うところの「骨太」が貫かれています。国民には、所得の低い家庭・住民税非課税世帯・五九〇万円未満の世帯などの規制や抑制、使い分けをおこない、生産性革命に協力する企業、積極的に挑戦する企業には、法人税を二五％、または二〇％に引き下げ、三年間にわたって固定資産税をゼロにするとしています。

一連の社会保障政策や運動の動きのなかで、今回のテーマのひとつ「我が事・丸ごと 地域共生」がどこまで進

んだかは、制度政策の二つの目的が、各個別の制度政策と現場実践や当事者の生活のなかで、権利としての社会福祉、社会保障にどのように影響が出ているか、これから出るのか。とくに、福祉を自助・共助路線に拡大し、公の役割を切り換え、民営化していく動きとも併せて、論議がおこなわれています。

真田は初代研究所理事長は、「福祉労働をみていくことは、福祉分野の現実態と構造とをいつも視野におさめることで、福祉理論が陥りやすい、福祉についての形而上学的で固定的な把握を打ち破る視点を提供するものである。社会福祉の構造は、政策主体と社会運動の対抗関係にあると、しかし、そこには生きた人間の活動・労働があるから社会領域としての福祉分野が他から区画されるとも指摘し、もちろん、福祉労働だけで社会福祉の現実態が作り出されているのではなく、社会的労働ではない活動をも含んでいる。」（一九七四年一〇月『ジュリスト』五七二号）と示しています。

福祉労働が実現しようとしている目的は、人間を対象とし、人間らしい生活と人間の全面的な発達・成長を阻むさまざまなハンディキャップに焦点を合わせたもので、真田さんは、「目的的活動としての福祉労働の特性と示す。労働の目的が、社会的及び人間的な価値観を含んだ目的であり、また一定の価値観に支えられてのみ得られる目的だと言う点である。したがって、これらの労働が価値観に支えられた目的を見失うと、反社会的なものに転落していく可能性を持つてくる」とも指摘しています。

福祉労働に今なお押し付けられている過酷な状態を打ち破る労働運動を強化していくことは、労働組合の課題ではあります。労働組合だけの問題ではなく、福祉関係者や対象、国民の問題でもあるのです。今回の合宿研究会で、二つのテーマから、福祉労働問題もアプローチしていきたいと思います。

（編集主幹）